

## 2 遊びでつながる

### 事例 4

### 「きらきらぼし」 ～歌でつながるうれしさ、楽しさ～

5歳児 6月(在日3～5年)

こんなきっかけ  
みつけたよ！

クラスには、中国語・ポルトガル語・英語を母語とする子供がいる。保育者は、生活や遊びの中にそれぞれの母国のことを取り入れ、子供たちが様々な国に興味や親しみをもってほしいと願っていたが、よい方法が見つからずいた。

七夕の話題や星のことについての会話が増えた頃、A児が母語の中国語で『きらきらぼし』を歌い始めた。保育者は「日本でも同じ曲の歌があるよ」と、日本語の『きらきらぼし』の歌を歌った。



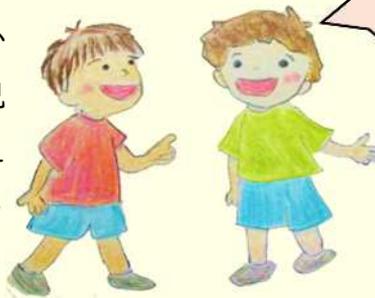
こうしたよ！

A児が『きらきらぼし』の歌を口ずさんだことをきっかけに、「他の国にも『きらきらぼし』の歌があるのかな？聞いたことあるかな？」と、子供たちに尋ねた。すると「聞いたことあるよ」「知ってる」「英語でもあるよね」など、日本以外の国でも『きらきらぼし』の曲が広く歌われていることが分かった。保育者もいろいろな国の『きらきらぼし』の歌を調べ、在園児の別の母語でもこの歌を保育に取り入れるようにした。

生活や遊びの中で保育者が口ずさむと、子供たちも真似をして歌いながら、言葉を覚えることが楽しくなっているようだった。分からない言葉があると、A児たちに「〇〇ちゃん、教えて」と、言葉を教えてもらった。

『うた』って  
なんて言うの？

『A song』っ  
て言うんだよ



よく知っている歌だからこそ、日本語以外の言葉でも歌ってみたいと思ったようでした。歌を通して、外国の言葉への興味関心を広げていました。



様々な国があることや、国によって言葉が違うことを知り、引き続き『きらきらぼし』をみんなですごうことを楽しんだ。

A児は、時に先生役になり『ワールドきらきらぼしコンサート』として、みんなの前でタクトを振ってごっこあそびを楽しむ姿も見られた。



【踊りながら歌を楽しんでいる様子】

様々な国の言葉に触れる面白さも感じながら、さらにそれを自分たちの遊びに取り入れて、楽しい遊びを考えています。



**ここが大事！**

### 一緒に歌う楽しさが、心を通わせます

言葉を覚えることや使うことだけでなく、リズムや歌に母語を取り入れ、歌を通して心を通わせる心地よさを感じられるような工夫が大切です。このような活動を通して、当該幼児は母語を大切にされているという安心感やうれしさを感じます。

### コラム 遊びのアイデア（外国語でも歌われる曲）

日本語でも、外国語でも歌われる歌を紹介します。全ての言語で歌われているわけではありませんが、聞き馴染みのあるメロディーで、子供同士がつながり、共に楽しめる教材になります。

🎵 「あたま・かた・ひざ・ポン」

🎵 「メリーさんのひつじ」

🎵 「グーチョキパーでなに作ろう」

🎵 「幸せなら手をたたこう」

🎵 「ゆかいな牧場」

🎵 「10人のインディアン」

🎵 「ロンドン橋」

🎵 「ドレミのうた」

🎵 「アルプス一万尺」

🎵 「ともだち賛歌」